

●作・演出/ユー・ホンヨン 中島 研  
 ●美術/有賀二郎  
 ●音楽/曲尾友克  
 ●照明/湯浅 肇 チュ・ソンゲン

●翻訳/石川樹里  
 ●制作/チョン・ヒョンウク 林 陽一  
 キム・ボギョン



二つの劇団が出会い、共同制作した作品「マンナム」二つの森の物語〜が生まれました。長い稽古期間やハードな公演日程をこなしながら、言葉や習慣の違いを乗り越え、共に苦勞を分かち合い創造し続けました。

伝統遊びや新しい表現遊び、五色の幕前の切り紙に囲まれた不思議な空間、自然の音にも似た荘重な音楽などに対して、観客の方々の反応も想像以上で、たくさん感想が寄せられました。

今回は出演者も新しく、内容も自然と人間の共生をより強く謳い上げた舞台となりました。新しい「マンナム」をぜひご期待ください。

# マンナム<sup>であい</sup> (出会い) <sup>みつ</sup> <sup>もり</sup> <sup>ものがたり</sup> 三つの森の物語

みやざわけんじさく おいのもり ざるもり むすつともり  
 (宮沢賢治作「狼森・兎森・盗人森」より)

## 「マンナム」のあらすじ

今までに見たこともないような、不思議な場所で、偶然出会った6人の男女。言葉が通じなくてとまどいながら、自然の中でお互いを知り合い仲良くなっていきます。

その6人に、森の中を流れている川のせせらぎや、樹木が語りかけ始めます。

“はるか昔、山が爆発し、その後には草や木が生え出し、大きくなって三つの森ができました。「狼森」「兎森」「盗人森」です。水が流れ、草木や動物たちが育む森です。ある日人間が来て、森たちに声をかけてから、家を造り畑を耕し、生活を始めました。そのうちに、人間と森たちの間でおかしな事件が続きました…”

そっと耳を澄ますと、森や動物と友だちになった、人間たちの笑い声が聞こえてきます。人間と自然が共に触れ合う喜びを、心の底から感じながら、楽しい祭りの踊りが繰り広げられます。

